

第23号

すだち

発行：高次脳機能障がい
徳島家族会「すだち」
住所：徳島市新浜町
3丁目1-60
(岩垣方)088-662-4776

高次脳機能障がいの回復に むけた医療と地域の連携

高次脳機能障がいリハビリテーション講習会

高次脳機能障がいリハビリテーション講習会が11月7日藤井節郎記念ホール（徳島大学蔵本キャンパス内）で日本損害保険協会（一般社団法人）の助成事業として開催されました。主催は、徳島高次脳機能障がいリハビリテーション講習会実行委員会で80名が参加しました。講習会は岩垣家族会会長の総合司会で進められました。

はじめに、実行委員会を代表して永廣信治氏（徳島大学脳神経外科教授）が、「国の支援事業としての研究は終了したが行政、家族等とタッグを組み活動を進めていきたい」とする挨拶があり、つづいて、「高次脳機能障がいの家族がもめているものとは、～維持期リハビリ事業所としての家族支援～」と題して北出修子氏（NPO法人高次脳機能障がい総合支援センターサンガ・サンガリハビリプラザ理事長香川言語友の会「みち」顧問）の講演と、「高次脳機能障がいの回復に向けた医療と地域の連携」と題して渡邊修氏（東京慈恵会医科大学第三病院リハビリテーション科診療部長）の講演がありました。高次脳機能障がい徳島家族会「すだち」の会員も多数参加していました。

北出氏は、高次脳機能障がいの特殊性と家族が抱える悩みを調査に基づく資料でわかりやすく説



明されました。また社会福祉制度の不十分さも話されていました。また渡邊氏は、高次脳機能障がいの回復にむけて、頭部の模型を使って障がいと脳の部位との説明がおこなわれ、行政用語としての高次脳機能障がいと広い意味では認知症も含まれること。また「社会脳を鍛えるためには地域でのリハが欠かせない」家族・仲間・小集団・社会の中で①相手を知り②自分の苦手な部分に気づく③感情を抑制する④対人関係を良好に保つ技術を学ぶことの大切さをはなされました。

当日家族会では、当事者が訓練を兼ねて制作した、猿の置物、小物、切り絵、絵等を展示し、募金を訴え募金者にそうした展示物を渡し協力を訴えました。

お知らせ

第8回高次脳機能障がい徳島家族会年次総会開催

日時（2016年1月16日（土）10時から）

場所（徳島県身体障害者プラザ）

徳島高次脳機能障がいリハビリテーション講習会に寄せて

平成27年度徳島高次脳機能障がい リハビリテーション講習会の開催について

徳島高次脳機能障がいリハビリテーション講習会
実行委員会委員長

徳島大学脳神経外科教授・徳島大学高次脳機能
障がい支援センター長 永 廣 信 治

今年も(一社)日本損害保険協会のリハビリテーション講習会助成事業により、高次脳機能障害リハビリテーション講習会～リハビリと支援～を開催することができ大変うれしく存じますとともに、開催にご支援いただいた関係者の方々に心から感謝申し上げます。今回の講習会では2つの講演を予定しています。



講演1は、東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座教授の渡邊修先生による「高次脳機能障害の回復期に向けた医療と地域の連携」です。渡邊先生は略歴にありますように大学卒業後一貫してリハビリテーション医学に取り組み、高次脳機能障害や脳外傷のリハビリテーションについて豊富な経験をお持ちですので、有益なお話を伺えると思います。

講演2は、NPO法人高次脳機能障害総合支援センターサンガ・サンガリハビリプラザの北出修子先生による「高次脳機能障害者の家族がもめているものは、～維持期リハビリ事業所としての家族支援～」です。北出先生も長く言語療法や高次脳機能障害支援に関わってこられていますので、実現場に即した有意義なお話が伺えると思います。講習会が実り多いものになることを願っています。

講習会開催にあたり

徳島大学大学院医歯薬研究所

地域医療福祉学分野教授 白 山 晴 彦

今年も徳島高次脳機能障害リハビリテーション講習会が開催されますこと、心よりお喜び申し上げます。また、ご講演を賜ります渡邊修先生、北出修子先生におかれましては大変お忙しい中、快く講演をお引き受けいただきました。この場をお借りし厚くお礼申し上げます。



さて、今回は「人は、なんのために働くのか」ということについて考えてみた

と思います。いわゆる仕事の目的ですが、「自分のため」または、「他者のため、社会のため」のどちらかなのでしょうか。

「自分のために働く」というものは、経済的や社会的な自立を確立し、自己の人生をより豊かにするものだ、という考え方がです。仕事というものは生活するよりも多くの時間と努力を費やします。一日8時間以上、また週のうちでもその大半は仕事をしていますので人生の中で最も長く付き合う事柄といえます。だからこそどんな仕事であれ自分自身がまず豊かな気持ちになり、満足したい、と願うのでしょうか、そして得られた満足感をエネルギーにし、再び人や社会の期待に答えていく。

一方、「他者や社会のために働く」というものもおります。たとえば、野菜をつくる、製品を組み立てる、サービスを提供する、はすべて他者と社会のためであり、自分が食べる野菜を作って仕事をした。とはあまりいいません。研究や教育も同様で、人材を教育・育成して他者に貢献する、科学的解明を図って社会に役立てる、のも真実です。その方が人に喜ばれたり、社会から高く評価されたりするのも、結果として自分の充足感を高めてくれます。東京の山手線に例えるならば、隣の駅に行くのに、右回りの電車に乗るか左回りの電車に乗るか、の違いだけで、働いて達成する喜びや人や社会に貢献して得られる充足感は、まったく同じだとかんがえられます。結局「自分のため」か「人や社会のため」かは、「どちらでもよい」ということになります。障害があっても働く、それは自分のためでもいいし、他者や社会のためでもいい、その目的がはっきりしていれば、人はより頑張れますし、得られるものも多いのではないのでしょうか。わたしも、わたし自身とみなさんのために、これからも働きたい、その目的が大切だと実感しています。

高次脳機能障害リハビリテーション 講習会参加者の皆様へ

一般社団法人日本損害保険協会

業務企画部長 大坪 護

本日はご案内頂きながら、所用で出席できませんが、助成団体として一言ご挨拶申し上げます。

日本損害保険協会では、自賠責保険の保険料を原資にし、その運用益を活用して自動車事故による被害者救済・支援のための事業を実施しております。本日の「リハビリテーション講習会」への助成事業もその一つです。

この講習会は、より多くの方に高次脳機能障害に対する理解を深めていただくことはもちろんですが、交通事故によって高次脳機能障害を受けられた被害者やご家族の方々にもご参加いただき、リハビリテーションに関する情報や社会復帰に向けたさまざまな情報をご提供すること、ひいては、当事者・家族間の交流や情報交換を行っていただくことで、日ごろの生活に役立てていただきたいという目的で実施しているものです。

また、当初12ヶ所で行っていましたが、今年度は41道府県で講習会が開催される予定となっております。これもひとえに、本講習会の運営に携わっていただいている方々の熱意とご厚情の賜物と、あらためて厚くお礼申し上げますとともに、本日参加されている皆様が、この講習会で得られたものをお持ち帰りいただき、是非とも日常生活や日ごろの支援業務に役立てていただければ幸いに存じます。挨拶に代えまして御祈念申し上げます。



徳島高次脳機能障害リハビリテーション 講習会の開催について

高次脳機能障害徳島家族会「すだち」

会長 岩垣 啓路

平素は、高次脳機能障害徳島家族会「すだち」の活動について、様々なご協力とご支援を賜り、誠にありがたく、厚くお礼を申し上げます。

今年度で7回目、徳島家族会「すだち」が関わらせていただき、一般社団法人日本損害保険協会様の資金助成を得て、「徳島高次脳機能障害リハビリテーション講習会」を開催すること

になりました。講習会実行委員会委員長には、徳島大学医学部の永廣教授にご就任いただき、諸準備を終え、本日ここに講習会開催の運びとなりました。

講習会実行委員長の永廣教授並びに副委員長の白山教授、委員の皆様には、色々ご配慮いただきましたことを、紙上をお借りして、厚くお礼申し上げます。徳島家族会「すだち」も設立以来7年9ヶ月余りとなり、会員も増減があり、現在30名強（正会員・賛助会員）となっております。この間徳島家族会「すだち」は、県下の行政、医療、福祉、マスコミ等へ様々な働きかけを行い、この障害へのご理解、ご認識を深めていただくよう努めてまいりました。他方、会員相互の親睦と関わりを深めていただくため、平成23年2月から毎月第3土曜に「定例交流会」を開催しております。このようなことで少しずつではありますが、家族会結成の目的が実現に向かって進んでいるものと自負しております。本日は、ご遠方よりお越しいただきました渡邊先生、並びに高松市からお越しの北出先生の貴重なお話を通じて、ご来場の皆様方の、高次脳機能障害へのご認識をより深めていただき、当家族会への一層のご協力、ご支援を賜りますよう、心よりよろしくお願い申し上げます。



7月定例交流会

7月交流会は、「ふれあい健康館」に20名が参加して開かれました。フリーマーケットでの展示、販売の実践を兼ね、集会は販売担当者を除き別部屋を開かれました。フリーマーケットでは、猿の置物を中心に会員等が家庭での不用品を持ち寄り販売しました。集会では、会員の現況報告と会「すだち」のホームページの運営について協議されました。

8月定例交流会議

8月交流会は、「障がい者プラザ」に11名が参加して開かれました。事務局からの○フリーマーケットでの活動報告○定例交流会開催日時の調査○脳外傷友の会全国大会開催について○ねんりんぴっく作品募集○香川家族会「うどんづくり」参加呼びかけ○会「すだち」ホームページについての報告を受けての討議と○新会員から現況報告がありました。また交流会には昼間氏、南川氏が参加されアドバイスをうけました。

10月交流会「みかん狩りを楽しむ」

10月25日徳島家族会「すだち」の会員15名が井戸端みかん園（勝浦町星谷）でみかん狩を楽しみました。当日は秋晴れでしたが風が強く少し寒いみかん狩となりましたが現地に10時に集合し、黄色く色づいたみかんを思い思いに剪定ばさみで切り取りおいしそうに何個も食べていました。黄色く色づいてはいましたがまだ時期が少し早いのか栖っぱ実が残るみかんもあり、参加者は甘そうなみかんを選びながらの一時でしたが、野外で有意義な交流会でした。



10月交流会みかん狩

「すだち」ホームページ一部（掲示板）変更

- 従前の掲示板を一般公開にしました。
何方でもパスワードなしにアクセス頂けます。
- 会員間の情報交換は「会員用掲示板」をご利用ください。
パスワードは従前と同じです。（従前のデータも移動）会員間の連絡や会員への連絡事項などに利用できればと思います。

ひとはみんなのために、みんなはひとりのために 日本脳外傷友の会15回全国大会開催

～高次脳機能障がい者のよりよい暮らしのために～

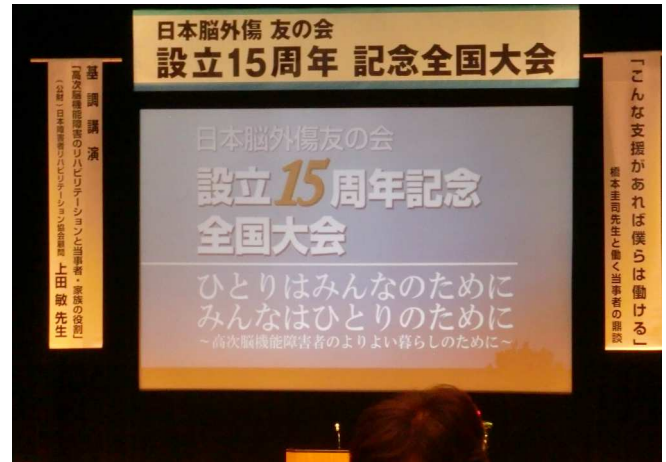
11月21日「きゅりあん」品川区総合区民会館(品川区大井町)で第15回日本脳外傷友の会全国大会が開催されました。今大会は友の会設立15周年の記念大会として開催され組織内外から500名余と多くの関係者が参加出席していました。徳島家族会「すだち」からも4名が参加しました。大会前夜には400名余りが出席し懇親会も開かれました。(以下すだち会員福永氏の参加感想も含めた報告を掲載)

――前文略――、会場となった「きゅりあん」は、一般公募により選ばれた品川区立総合区民会館の愛称らしく、ラテン語の「集会所」を意味する「キュリア(curia)」が語源の造語で、『人が集まり、ふれあうように』との願いを込めてつけられたそうで、四国からは香川からは会長さんご夫婦とリハビリセンターの方、高知からは会長と作業療法士の方の参加があり、正しくその通り、全国から会員が「集まり、ふれあい」ました。今年度を持って理事長が東川さんから副理事長の古謝さんに交代される事となりました。

懇親会はフリータイムの立食で行われ、松平晃さんのトランペット演奏、プラム熊本の「一ノ瀬たけしさん」が、「僕の道しるべ」・「歩いてみたら」等の歌を唄い、「心の唄メンバーとひだまりの3区の有志」による大合唱、「花は咲く」・「世界に一つだけの花」、「木谷正道と心の唄バンド」による「アンパンマンのマーチ」・「島歌」・「アメージング・グレース」等が歌われる等、皆さん楽しいひと時を過ごしました。

21日の翌日は朝の10時から500名以上も大ホールに集い、初代厚生労働大臣坂口力氏の大会開催に向けてのあいさつがありました。

そして、今年も東川理事長から直接手渡しで、当事者活動奨励賞も4名の方に交付され、ますます今後の励みになるのだらうと私は思いました。



上田敏(ナシ)先生の基調講演「高次脳機能障がいのリハビリテーションと当事者・家族の役割」では「当事者・家族は権利と責任を自覚し、専門家に頼り切るのではなく、質問や意見を言い、要望や要求を上手に伝えてそれを実現していけば良い」と言われていたのが、私の心に一番残ったのでした。

午後からは橋本圭司先生と当事者によるディスカッションと、著名パネリストによる「高次脳機能障がい支援の現状とどうなる今後？」と題したシンポジウムが開催されました。

今年は日本脳外傷友の会設立15周年記念という事もあり、東川理事長が以前より「作品集を作りたい」と話されていたのですが、今回その初版本が見事に出来上がり夢も叶ったようです。初版は1,000部の発行で冊子(500円)を販売されていました。

その中に、私の切り絵作品と陶芸作品の写真計5点(切り絵=「クロダイ(チヌ)」・「見越しの松」・「京舞妓」・「自画像」、陶芸=「ふくろう(不苦労)」)で、ページを3頁も割っていただきました。私は今後もこの作品集が途絶えることなく、2作目3作目・・・と続くように、そして『人が集まり、ふれあうように』その事を願い、10冊を買い求めました。(福永)

高次脳機能障がい研修会

三好保健所主催

12月1日三好市地域交流センターで「27年度高次脳機能障がい研修会」が当事者・家族・医療関係者等20名余りが参加し開かれました。はじめに障がい者就労施設「セルフ箸蔵」の見学を行いその後地域交流センターで研修会が開かれました。すだち会員も6名が参加しました。



割り箸作業一行程



ネクタイを利用したクリスマスデコレーション

障がい者就労施設「セルフ箸蔵」では、就労訓練としてリサイクル作業、割り箸生産、弁当生産、パン製造等の事業を行っていますが、見学は割り箸生産の現場を見学、多くの就労訓練者が作業場で働いており、製材で出た端材を行程別「皮剥ぎ、寸切、煮沸、製品、選別、包装等13の行程作業」で手際よく作業を行っていました。製品は全国の大学生協の食堂等で利用されているとのことでした。その後の研修会では、「高次脳機能障がい者のリハビリテーション」と題して磯田氏（ホフエツ病院言語聴覚士）の講演があり、社会とのつながり、長く付き合い等高次脳機能障がいの病態を簡潔わかりやすく話されていました。

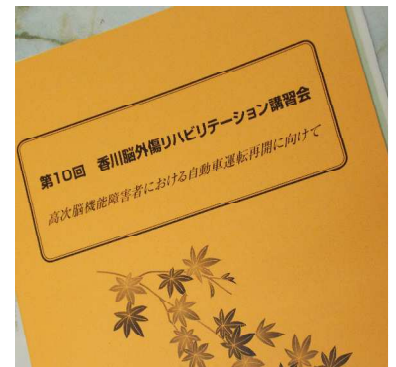
つづいて、参加者全員で「クリスマスツリー」作りに挑戦、使わなくなったネクタイを利用しクリスマス用デコレーションを飾りつけました。最後に参加者で意見交換を行い、作品を手に記念撮影をして終了しました。

「高次脳機能障がい者への自動車運転再開支援」

第10回香川脳外傷リハビリテーション講習会に参加

平成27年10月31日(土)かがわ総合リハビリテーション福祉センター研修室において、「高次脳機能障害者における自動車運転再開に向けて」という演題で講習会が開かれました。

この講演会の開催に当たっては、医学の立場から、かがわ総合リハビリテーションセンター長河井信行先生（リハビリ病院副院長【脳神経外科】）による基調講演と、千葉リハビリテーションセンター作業療法士小倉由紀氏。



による「高次脳機能障がい者への自動車運転再開支援」の講演も引き続きありました。

都会とは違い、交通手段がまだまだ発達していない四国では、やはり自らの車の運転を必要とする免許取得者が多くおり、また車を運転したいと痛烈に願う我々障がい者も多い事もあってか、会場は予定者数をはるかに超えてしまいました。

脳損傷に伴い道路交通法も改正される中、全国ではこういった自動車運転再開支援について取り組んでいるという事であり、障がい者にとって一定の条件下ではあるみたいですが、少しずつ明るい陽が射して来ているようです。

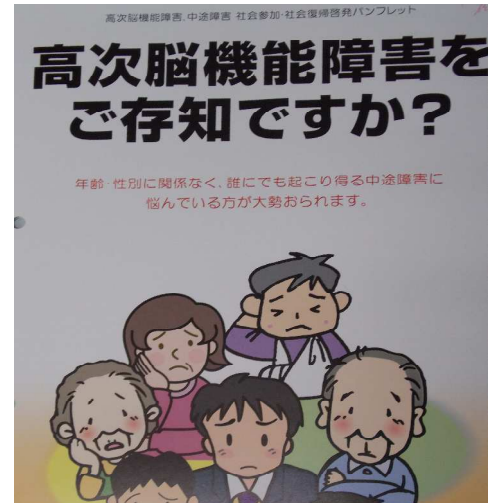
その後、「四国各県の自動車運転再開支援の現状と課題」というテーマで、シンポジウムに各県の病院の作業療法士の方達が、それぞれの病院の取り組みについて話されました。

「認知障がいを有した人の 生活課題を補うアプリ」

宝塚ハグ主催高次脳機能障がい講演会に参加して

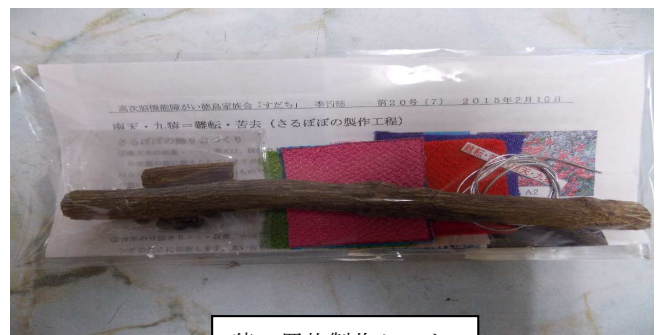
10月17日(土)午後1時から4時まで、宝塚ソリオホールにおいて、就労継続支援B型事業所珈琲焙煎工房 Hug(ハグ)による、高次脳機能障害についての講演会がありました。宝塚リハビリテーション病院療法部言語聴覚士主任北山敏也氏の講演会では、「高次脳機能障害とは?その症状とリハビリ~患者さんと周りの人たちの関わりあいを、通じて~」の啓発は、当事者のひとりとして、私も大変参考になったと思います。休憩を挟み、アコースティックライブ礪崎弘さんと鈴木勇造さんのギター演奏が入り、会場に来られていた方々は、名曲に耳を傾けられていました。そして、高槻市にある山口クリニックの院長山口研一郎氏のパネルディスカッションがあり、それぞれの症状が違う中、この先生のクリニックで作成されている「高次脳に関する認識を高め、今後の展開を探るために」という11号から14号までの素晴らしい資料を入手することが出来たという事は、私自身いろいろな大会に参加するという事が、自らの為にも繋がるのだと再確認したのでした。また、今回私がこの講習会で得た物、それは、「あらた」という認知症などの認知障がいを有した人の生活課題を補うアプリがあるという事。アンドロイドタブレットを持っている方が「あらた」をインストール{公式サイト(<http://aratarife.com>)}すると、生活活動が広がるという優れたものなのです。

行動の促し・確認漏れの防止、生活をサポートする機能とし、時報、日記、写真、手書きメモの機能を持っているようです。(福永)



物 品 販 売 活 動

「すだち」では、猿ぼぼの置物を中心に、当事者作成の物品販売活動を精力的に行っています。11月28日には、ふれあい健康館でのフリーマーケットに出店、また11月22日には県西部地区診療所(健生西部診療所)祭り会場に出店し、来場者に家族会「すだち」の宣伝パンフを渡しなが、猿の置物、ネックレス、切り絵の販売を行いました。祭り会場では切り絵が40点を超えて販売できましたしネックレス、猿のおきものも販売できました。西部地区の会員さんの知り合いも多く多数売り上げることができました。また健康館では、猿の置物の一体分材料を一セットにして販売、数セットを販売することが出来ました。



高次脳機能障がい実践的

アプローチ講習会「第3回」

2015年の東京高次脳機能障がい協議会(TKK)主催の高次脳機能障がい実践的アプローチ講習会の第二回講習会が12月6日開かれ、全国から200名余り受講しました。徳島もすだち会員1名が個人受講しました。

今年のアプローチ講習会は、5月、8月、12月の3期日での開催が決定されており、今回は、第3期目として4講座が開かれました。第1講座は、「高次脳機能障がいリハビリテーションのエビデンス」と題して渡邊修氏(東京慈恵会医科大学第三病院リハビリテーション科)講義が行われました。第2講座では、「新樹苑の実践から学ぶ高次脳機能障がい者のリハビリと自立への支援」と題して半田理恵子氏(夢のみずうみ村新樹苑)第3講座は、「高次脳機能障がい者に対する就労支援」と題して、柳澤朋秀氏(国立職業リハセンター)の講演があり、「高次脳機能障がい者の生活アシスタント」と題して、野々垣睦美氏(脳外傷友の会ナナ、クラブハウスすてっぷなな)の講義があり、第4講座はの講義がありました。第一講座、渡邊氏の講義ではリハビリテーションのエビデンス(科学的根拠)についての講義が行われ



「認知リハビリテーションのガイドライン」として12項目に整理されていました。第二講座、野々垣氏は、自己選択決定を尊重し、多種多様なプログラムが提供し、利用者が選択決定して進められていることが話されていました。第三講座、柳澤氏は、職業リハビリテーションにおいて、職業的課題、雇用管理上の配慮、就職・職場復帰のポイントについて話されていました。第四講座、半田氏は、自立生活アシスタントとして、「生活への助言や環境設定であり直接処遇は行わない」、「支援方法の原則」が話されていました。

28年度高次脳機能障がい実践的アプローチ講習会開催要項確定

2016年の東京高次脳機能障がい協議会(TKK)主催の「高次脳機能障がい実践的アプローチ講習会」の開催日程が確定しています。今年同様3期日(5月29日、9月11日、12月11日)での開催です。各期日とも4講座を予定、すでに講師は、第1期日(長谷川幹氏、山口加代子氏、山河正裕氏、勝部麗子氏、)第2期日(中山八十一氏、白山晴彦氏、小林健氏、阿部順子氏)第3期日(渡邊修氏、四ノ宮美恵子氏、稲葉健太郎氏、石渡和実氏)に確定しています。会場はいずれも(東京慈恵会大学病院第三講堂)、費用(一期日5000円)で、2016年3月27日から受講の申し込み受付。(詳しくは「すだち」事務局に尋ねてください。)

